

# つくば市記者会 御中

発信日：令和4年（2022年）1月14日（金）

発信元：つくば市 政策イノベーション部 科学技術振興課

取材依頼 周知依頼 募集告知 その他

## 「つくば市成人の集い」で、水素燃料電池バスを活用したPCR検査を行いました

つくば市は、筑波大学が「水素燃料電池バスを用いた防災・感染症対策システムの開発」事業の一環で実施する、感染症対策システムを備えた「災害医療モビリティ」の実証実験に協力しています。

今回、茨城県知事の要請により、成人式（式典）への出席には、新型コロナウイルスワクチン2回接種済証明又は、PCR検査等での陰性証明が必要となったことから、対応策の一つとして「つくば市成人の集い」の会場において、水素燃料電池バス「SORA」をベースにした感染症対策システムを備えた災害医療モビリティ内でPCR検査を行いました。

本水素燃料電池バスは、1日2,000名以上の検査が可能で、検査結果は検体採取から約40分で判明するため、大規模イベントだけでなく、災害時でのPCR検査システムとしての利用など、様々なシーンでの展開が今後も期待されています。

**日時** 令和4年（2022年） 1月9日（日）7:50~15:30  
10日（月）8:00~13:50

**場所** つくばカピオ

**受検者** 両日で計87名



水素燃料電池バス「SORA」



受付の様子  
(いずれも写真提供可)

「水素燃料電池バスを用いた防災・感染症対策システムの開発」について  
筑波大学は、内閣府戦略的イノベーション創出プログラム（SIP）「国家レジリエンス（防災・減災）の強化」の採択事業「水素燃料電池バスを用いた防災・感染症対策システムの開発」に使用する水素燃料電池大型バスの車両開発を完了し、2021年10月より同車両を用いた感染症検査機能の実証実験をスタートしました。市は、独自のPCR検査会場での臨床研究協力や感染症対策の施された避難所レイアウト検証などフィールドの提供を行います。